

平成 27 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	農学生命科学部・准教授
	氏 名	高梨子 文恵
事 業 名	生産者と学生によるベトナムの農村視察及び市場調査	

事業の概要とその成果

【構成メンバー】11 名

- ・チームリーダー（農学生命科学部） 高梨子 文恵（准教授）
- ・指導教員（農学生命科学部） 石塚 哉史（准教授）
- ・参加学生（農学生命科学部） 3 年生 1 名  
（農学生命科学部） 2 年生 5 名
- ・市民等（弘前市相馬村） 1 名（生産者）  
（JA 相馬村） 1 名（職員）
- ・事務職員（農学生命科学部） 1 名（事務長）

【実施期間】

平成 27 年 11 月～平成 28 年 2 月 26 日

【事業概要とその成果】

●事業概要

弘前市内の若手りんご生産者、JA 職員、学生が、近年新しいマーケットとして注目を集めているベトナム・ホーチミン市及びアンザン省の農産物市場・産地の視察を協同で行うことで、地域の内発的発展の契機を探る。

●目的

- ・弘前市の農業及び農村部の抱える課題を理解する。
- ・国際的な視野の醸成とコミュニケーション能力の向上
- ・問題発掘能力・調査能力・発表スキル等、フィールド調査に係る能力の向上
- ・途上国農業生産の現場視察を通じた、国際化の中での弘前地域農業の相対化
- ・輸出市場としてのベトナム市場視察
- ・地域振興の主体である生産者・JA・学生のネットワーク化

●研修内容

事前研修／JETRO 青森での聞き取り調査、アンザン大学での発表資料の作成

現地研修／スーパーマーケットの視察、アンザン大学でのセミナーの開催、現地生産法人（ANGIMEX-KITOKU）、農協訪問、AEON ホーチミン訪問（開催されていた JAPAN AOMORI Fear でのアンケート

調査) 等

●成果

渡越前の事前研修では、JETRO を訪問し、視察に参加いただいた生産者や JA 職員の方と話し合いを行いながら、セミナー(アンザン大学で開催)で発表するスライドを作成することにより、弘前のリンゴ生産に関する知識を得ることができた。事後研修でも、得られたデータを加工し、発表するという経験を通して、アンケートデータの基礎的な処理方法や基本的なプレゼンテーションスキルを取得した。

現地研修中は、学生の感想によると、事前研修でベトナムについて学習はしていったが、想像していたのと現地で実際見るものは全く違って、体験することが大切であるという意見が多く出された。本研修のメインの目的ではなかったが、現地を訪れることで、大きな貧富の格差や、貧困が確実に存在していることへの深い理解が得られた。また、アンザン大学のセミナー及び AEON でのアンケートの一部は英語で行われたため、英語の取得に関心がある学生は積極的な対応が見られた。英語に自信がない学生も、語学の必要性を強く意識するなど、コミュニケーションツールとしての英語の重要性を、身をもって理解することができた。

また、りんご市場については、参加者すべてが非常に興味を持って視察を行い、日本とベトナムのりんご市場の違いや、日本産リンゴの売れ行きなどを現地で実感することができた。今後ベトナムがりんご市場として有望であるが、ベトナムの検疫制度問題などが輸出拡大の阻害要因であることなどを現地で改めて理解した。また、アンケート調査結果をまとめたことにより、市場に関する一定の統計的情報を得、弘前市の生産者に対して還元することができた。

反省点としては、採択から現地研修、報告会までの期間が非常に短期間であったため、事前に行う予定だった市民と学生の話合いなどの時間を十分にとることができなかった。地域の生産者と学生による地域貢献につなげていくには、今回の視察をきっかけに、継続的な交流が必要であると感じた。